

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	医療法人社団広崎会さくら病院	階数	地上4F		
建設地	熊本県	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種	平均居住人員	258人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年3月28日		
敷地面積	15,161 m ²	作成者			
建築面積	2,203 m ²	確認日			
延床面積	6,766 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.6

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

74%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		86
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	87.8
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	71.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	92.8
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	90.0

■ 熊本県重点評価基準

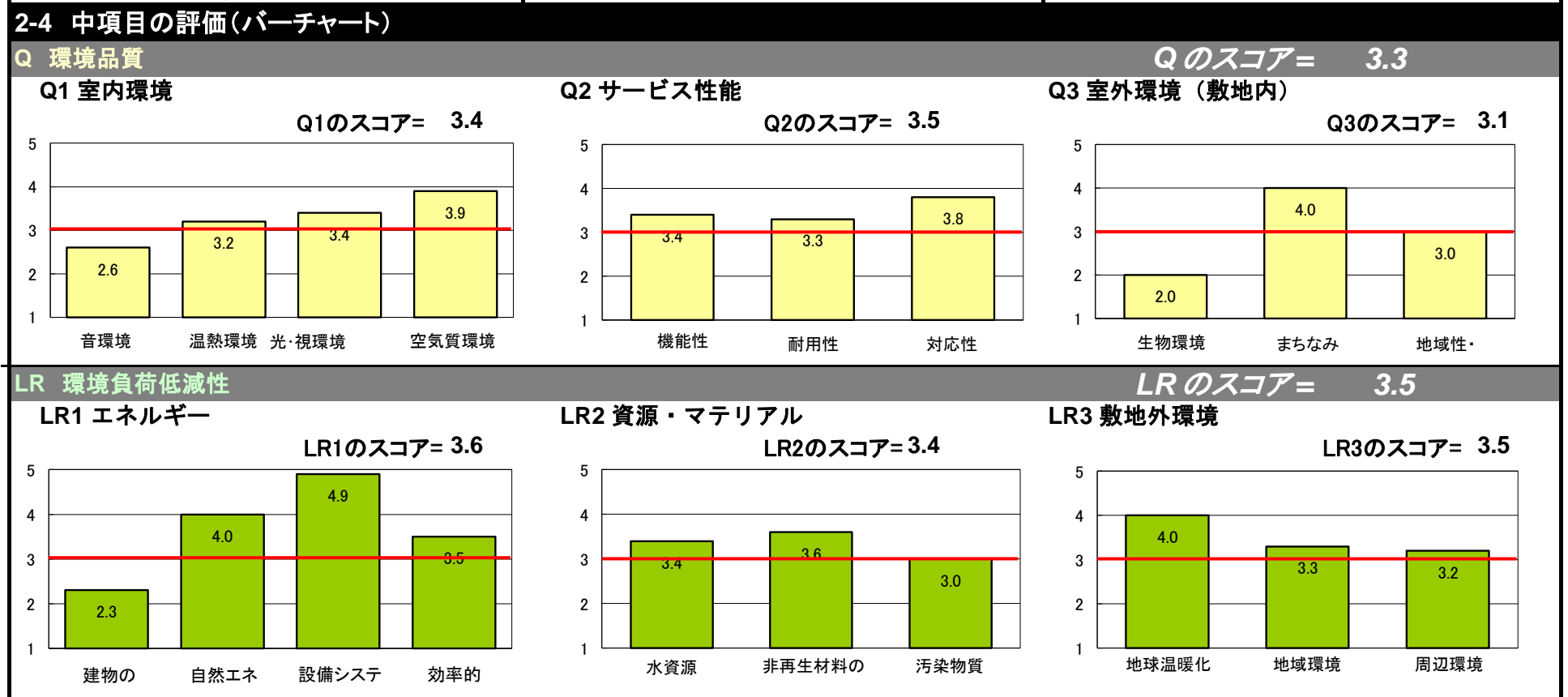
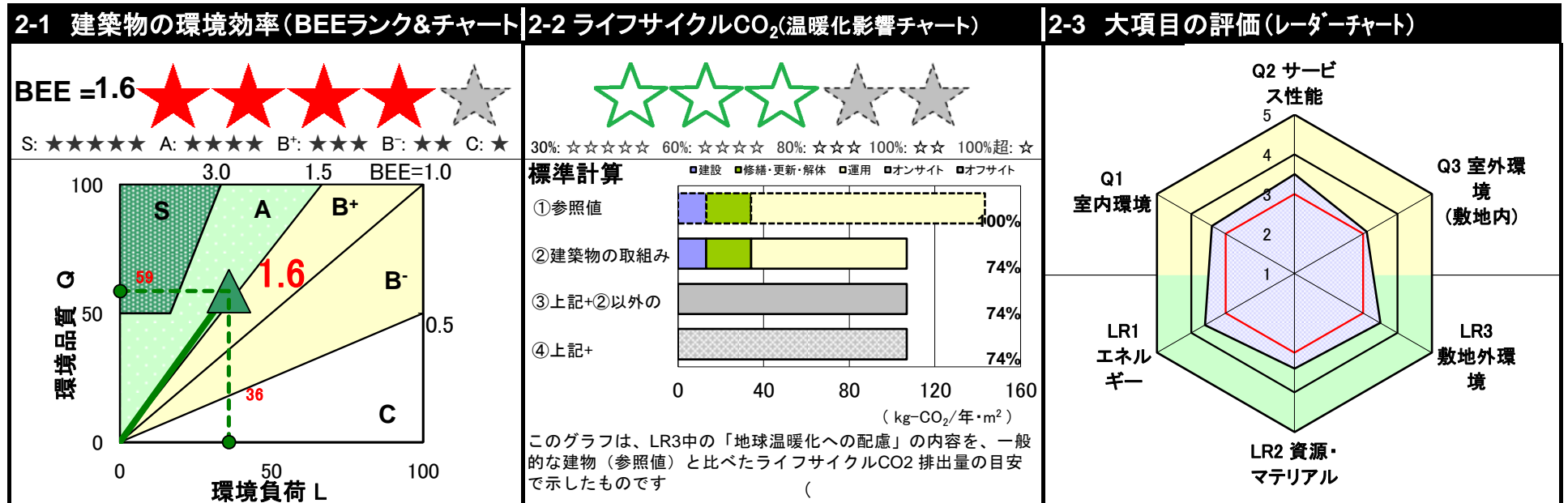
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人社団広崎会さくら病院	階数	地上4F
建設地	熊本県	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一	平均居住人員	258人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年3月28日
敷地面積	15,161 m ²	作成者	
建築面積	2,203 m ²	確認日	
延床面積	6,766 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

医療法人社団広崎会さくら病院

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境			0.40			3.4
1 音環境		2.6	0.15	2.6	1.00	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		2.2	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.3	0.35	3.2	1.00	3.2
2.1 室温制御		3.6	0.50	3.4	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		4.0	0.25	4.0	0.43	
4 ゾーン別制御性	負荷に応じた空調ゾーニング制御を行う。	4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.3	0.25	3.6	1.00	3.4
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	共用部2.5%以上、住居部1.25%以上確保	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.0	0.25	3.7	1.00	3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆材を70%以上採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.5	0.30	3.3	0.38	
1 換気量	外気量は一人当たり30m ³ /hを確保	4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.6	0.40	2.8	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		1.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	共用部において評価する取組みが3項目該当	4.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	共用部において評価する取組みが10項目該当	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ダクト類の長寿命化を図っている	4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用樋上位3種の2種以上にC以上を使用	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	共用部において評価する取組みが3項目該当	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	災害時等のインフラ遮断時、排水を汚水槽へ貯留可能。	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	共用部において評価する取組みが2項目該当	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.29	3.8	1.00	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.6	0.50	-
1	階高のゆとり	共用部3.9m、住居部3.9m以上確保	5.0	0.60	5.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ	共用部、住居部共に壁長さ比率が0.1以下	4.0	0.40	4.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.31	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	設備機器の更新に対応したルート確保。更新、修繕時に建物機能	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースの確保	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			2.3	0.30	-	-	2.3
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトの設置	4.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電(50kW)の設置	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR値33.2%	4.9	0.30	-	-	4.9
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	ERR=33.2%	4.9	-	-	-
		集合住宅の評価	3.0	-	-	-	-
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針の計画	4.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加え省水型機器を使用	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用、陶磁器タイル、集成材、木質系セメント	5.0	0.21	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	共用部において評価する取組みが1項目該当	4.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		LCCO2=74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼器具を使用せず大気汚染物質が全く発生しない	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する取組み表の評価ポイントが4	5.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・患者領域の全てに景観を生かした居住性の確保
- ・動線効率に配慮した快適な院内環境の確保
- ・コスト縮減につながる環境配慮の提案
- ・将来の施設展開に配慮した敷地利用計画の提案

Q1 室内環境

- ・病室からの景観に配慮し、東側の病室からは、阿蘇の外輪山を見渡すことができ、西側の病室からは敷地内西側にある「さくらの杜」を見下ろせるようにします。
- ・病室や主たる居室には複層ガラスを採用し、室内のエネルギー不可の低減を計ります。

Q2 サービス性能

- ・メンテナンスバルコニーの設置など維持管理に配慮した計画とします。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・透水性の側溝や敷地内の緑化等で地下水の維持に配慮します。

LR1 エネルギー

- ・太陽光発電の利用、高効率の省エネルギー機器の採用などでエネルギーの有効利用を計ります。

LR2 資源・マテリアル

- ・既存建物の解体におけるリサイクル化や場内発生土の有効活用を図ると共に、再生可能資源の積極的採用を計ります。

LR3 敷地外環境

- ・敷地外への雨水流出の抑制を計ります。

その他

特に無し

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 医療法人社団広崎会さくら病院

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	85.9	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.8	0.40	35.12
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.3	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.8	0.20	18.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				90	0.20	18.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数